切り撮る－Wear kimono
Beauty 和装の心をまとう

美しく装うことは、
生きる喜び。
普段着の上から、
手軽に着脱できる和装は、
高齢の方や障がいのある方の
生活の質を向上させてくれます。

（右）2020年2月にオープンした店舗兼スタジオ。店舗の外構は〈(有)栗原緑化土木〉が施工(Tel:0280-87-2373)。(左)〈明日櫻〉代表の淺倉早苗さん。京都で仕入れたこだわりの軒下灯篭、潜門をくぐると枯山水の庭へと続く日本情緒の癒やしの空間（＊‥店舗兼スタジオの詳細はP14～15をご覧下さい）。

――車イスに座ったまま、着物が着られる！

着付けに3分『早咲羅（はやさくら）』に込めた大きな想い

―― 淺倉 早苗 さん

取材・レポート‥『めづるくらし』研究会 編集部

埼玉県の〈国立障害者リハビリテーションセンター〉（略称〈国リハ〉）で、毎年、秋に開催される『国リハ コレクション』。快適でおしゃれな衣服を紹介する「ファッションショー」のフィナーレでは、昨年も華やかな振袖姿に身を包んだ女性と羽織袴姿の男性が車イスで舞台に登場し、観客の拍手喝采を浴びていました。

障がいに配慮したビジネススーツやレインパーカーなど「ユニバーサルデザイン」の多様な取り組みに、そして何よりモデルさんたちの輝いた笑顔に感動し、ロビーに出ると、和装でショーを盛り上げたお二人がご家族と記念撮影をしていました。舞台ではよく見えなかった振袖の後ろ姿を目にしてびっくり！ 見事な結び帯が、車イスの背中で確かな存在感を放っています。

この素晴らしい車イス用の着物を考案し、モデルさんやご家族に満面の笑みを贈った人、それが淺倉さんです。

最近ではパラリンピックの名選手たちが淺倉さん考案の『早咲羅』を着用してメディアでも注目を浴びています。「『国リハ コレクション』には毎年参加していますが、舞台裏は大変なんです。モデルをしてくださるのは国リハの患者さんで、『極力負担をかけないように1分で着せられませんか？』と言われたことも（笑）。でも3分あれば着付けられますから、大丈夫です」

淺倉 早苗 あさくら さなえ
‥〈楽着物工房 明日櫻〉代表取締役

1964年、東大阪市に生まれる。10歳のときに茨城県かすみがうら市に転居。大学で芸術工学を学び、家電メーカーに就職。石油ファンヒーターのデザインなどを担当。商品開発や意匠登録のノウハウをこの時代に学ぶ。父親が急死したため、実家の稼業を手伝うべく退職。26歳で結婚。医師の夫の転勤に伴い、専業主婦になり2男2女を育てる。2010年ごろから車イス着物のデザインを考え始め2014年工房『明日櫻』設立。2015年、グッドデザイン賞受賞。2016年、いばらきデザインセレクション選定受賞。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保3-17-13
Tel:029-852-9316
E-mail:asusakura.kimono@gmail.com
HP:http://www.asusakura.jp/kimonos

＊‥2018年平昌パラリンピックで金・銀・銅のメダル計5個獲得の村岡桃佳（アルペンスキー）選手や、瀬立モニカ（カヌー）選手は新成人式にて。『ヒューマンライツ・フェスタ東京2019』では二條実穂（元車イステニスプレイヤー）さん、猪狩ともか（アイドル:仮面女子）さんが着用など。

『国リハ コレクション2019／どんなときも自分らしく』の（右）ステージと（左）ロビーにて。（国立障害者リハビリテーションセンター 2019.10/19）

◆ (C) MEDURU KURASHI 2020
『めづるくらし』vol.06 より

『早咲羅』を通じて、障がい者や高齢者が健常者と等しく生きる社会、ノーマライゼーションの実現を目指しています。

きっかけは、脳溢血で倒れた淺倉さんのおばあ様でした。車イス生活で精彩を失っているおばあ様の「私、もう着物は着られないわね。」のひと言が、大胆にも淺倉さんに着物の背中にハサミを入れさせたのです。周囲の人はびっくりしましたが、着物に袖を通したおばあ様は、孫娘の英断に久々の笑顔で応えてくれました。最初はシンプルな小紋で作りましたが、周囲からも「私も借りたい！」との要望が続いて、特許を出願するに至りました。車イスでもベッドに寝たままでも着脱できる『早咲羅』の販売・レンタルを始めてから5年。2月には、念願だった店舗兼スタジオが自宅傍にオープンしました。

「つくば市に住んで20年になりますが、出身は大阪なんです。小学生のときに霞ケ浦に引っ越しまして。隣には東京から来た男の子がいて、転校生同士の同級生！　それが主人です（笑）」

筑波大学で学び、麻酔科医となった夫のお気に入りの地に居を構え、2男2女の子育てを成し遂げた淺倉さん。

工房〈明日櫻〉を設立してからは、ご主人はじめご家族の知識と協力を得て車イス着物のために全身全霊の毎日。人工呼吸器をつけている方の胸元の空き具合、胃ろうの方の締め付け具合などを専門家に相談しながら、とことん試作を繰り返します。どんな体型や状態にあっても負担なく美しく着られるように、何度も補整を重ね、腕のいい和裁士に頼み、ていねいに仕立てます。

無理だと思っていた和服姿でおしゃれを楽しんだお客さまや、ご家族からの写真と感謝の声が淺倉さんの励みです。「直接、着せてあげられないことのほうが多いのですが、全国各地からの注文に応えるため200%の努力をしています。それでも100%の出来とは言えません」と仕事に妥協を許さない姿勢に敬服させられます。

『早咲羅』はあきらめを笑顔に変える魔法。工夫と丹精を込めた着物で障がい者や高齢者に装いの喜びと自信を届け、心と体に変化を与えたい！　淺倉さんの強い想いに、私たちからもエールを。

テレビ朝日「TOKYO 応援宣言」に、＜できるを広める「車イス着物」の伝道師＞として出演。松岡修造さんから「宣言証」をいただく。

（上）店舗内に置かれた＜乾漆＞。おじい様が制作された形見の品で、伝統工芸を大切にしたい！との想いで展示。
（右）壁面の絵画は淺倉さんの片腕・娘の聡美さんが描いた桜。奥には平成最後の園遊会で着るために、村上桃花（アルペンスキー）選手からの注文で仕立てた渾身の『早咲羅』の記念写真。

◆ (C) MEDURU KURASHI 2020
『めづるくらし』vol.06 より

「いばらきデザインセレクション選定受賞」と「グッドデザイン賞受賞」の報告を兼ね、母娘三代でつくば市役所を表敬訪問。（2017.3.29）

手作りの看板は事務所兼店舗にしていた自宅前に創業時に立てたもの。今も事務所案内板として健在。

お父様亡き後、力を合わせて家業を続けたお母様・久美さんと、車イス着物発案のきっかけになって下さったおばあ様のマサエさん。99歳の今もお元気で淺倉さんの原動力です。

身体への負担の軽減を考慮した、正面部の一体型・背面部の分離型で、今まで着脱が困難で着物を着ることを断念していた方でも着付けることができる着物として、「GOOD DESIGN AWARD 2015」を受賞。

オール・バリアフリーのショップ&スタジオ
〈楽着物工房 明日櫻〉の「おもてなし」のこころと空間

竹垣、黒塀、水盤、軒下灯篭……潜門をくぐると苔と白砂の枯山水の庭へと続く。〈明日櫻〉では、いたるところで「おもてなし」と「癒やし」の空間が迎えてくれた。

店舗の外構にある水盤には、柄杓と手製の竹の柄杓置きがそっと置かれ、車イスの車輪の汚れを落とすことができる。

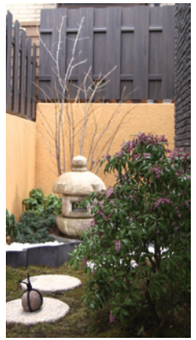
1階には、広い撮影スタジオとメイクルーム。事務室兼食事スペースは、50年前のシャンデリアに、オーガンジーと光沢のある赤のカーテンが掛けられ、落ち着いた空間でゆったりと客人が時間を過ごせる。

トイレには、「あったら便利！」とシャワーを設置。車イスの人が足元のスペースを確保するために、シンクのみでスッキリしている。メイク室とともに、車イスでもゆったり入れる広さでゆとりのある空間となっている。

エレベーターで2階へ上がると、桜の磨き丸太と赤い壁がアクセントの陳列室となっている。淺倉さんのハンドメイドだという竹の陳列棚はライトアップされていて、車イスの人の目線に合わせ、どこからでも商品が見えるように工夫が施されている。

着物の仕立て直しから着付け、撮影、メイク、休憩とすべてができる店舗は、内外どこでも車イスで自由に移動ができ、様々な場所で記念撮影ができるなど、とても楽しい「おもてなし」の空間となっていた。

陳列棚に並ぶ振袖用の帯と、取材を受ける〈明日櫻〉代表の淺倉早苗さん。



苔と白砂で水の流れを施した、間接照明を取り入れた枯山水の庭。

撮影スタジオにて、視察に訪れた五十嵐立青（たつお）つくば市長と〈明日櫻〉代表の淺倉早苗さん。市のふるさと納税のお礼品として『早咲羅』3日間のレンタルも。

五十嵐立青・つくば市長に、柄杓で水盤の水を汲み、車イスの車輪の汚れを落とすことができると説明する淺倉さん。

楽着物工房 明日櫻

2020年2月完成。筑波山を望む店舗では、日本情緒の中、車イスにも配慮された空間で、季節を感じる「おもてなし」が楽しめる。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保3-17-13
Tel：029-852-9316
E-mail：asusakura.kimono@gmail.com
HP：http://www.asusakura.jp/kimonos

雑誌社のスタジオで淺倉さんが取材撮影を受けたとき「こんな部屋を作ろう！」と閃き、実現させたメイクルーム。憧れの女優ライトに、アクセントの吊り下げ式のブラケットライトで「お姫様気分なって欲しい！」とも。

トイレには跳ね上げ手摺とL型手摺。高級感のある大理石柄のタイルに、金色のタイルをつけて優雅な雰囲気に。

一般の呉服店では着物を汚すので食事はご法度だが、あえて食事ができる寛ぎの場所を確保した。

◆ (C) MEDURU KURASHI 2020